

マレーシア国際家具見本市

世界に向けて伝統を発信！
南風薫るマレーシアのフェア



ブース全体で提案する洗練されたライフスタイル。白い空間に紫のソファがひとときわ映える

毎年3月の5日間、マレーシアの首都・クアラルンプールで開催される「マレーシア国際家具見本市」。通称「MIFF」と呼ばれるこの見本市は、マレーシアという国にとって重要な位置を占めている。

というのも、マレーシアの家具産業は全体の90%が輸出向けだから。マレーシアと取引をする国は、なんと世界160カ国以上！ そのため、キッチン家具、ベッド、オフィス家具など、世界各国に輸出するためにはマレーシアは努力を惜しまない。

近頃ではエコやフェアトレードへの意識も高まり、「グリーン・ファニチャー」を意識したものづくりが盛ん。南国らしいパームツリー（椰子の木）やもみ殻を素材に取り入れたり、環境に対応した接着剤を用いたり。こうした努力の結果、2010年までの15年間で家具輸出額は約20倍に上昇したというから、マレーシアの勤勉さには脱帽させられる。

もともとマレーシアは、人種も言語も多様な国。先住民や移住民それぞれの文化と熱帯雨林の気候が混ざり合い、自然とともに生きる家具やインテリアが発達した。特産の錫や竹かご、ろうけつ染めのファブリックには、手仕事のあたたかみと南国ならではの大胆なデザインが絶妙のバランスで融合している。

今、マレーシアの家具・インテリアの世界は、世界に通用するクオリティを追い求めながらも、「マレーシアらしさ」やマレーシアブランドの確立を目指して動きは始めている。



1



2



3



- 1 会場には世界各国からバイヤーがやってくる
- 2 トロピカルムードあふれるガーデンファニチャー
- 3 ヨーロピアンなデザインも、マレーシアにおまかせ
- 4 確かな技術とアジアデザインが融合
- 5 シンプルなソファにこそ技術が伺える
- 6 モザイク模様の美しいベッド



6



5



4